

能

忠

度

宇高竜成

狂言 舞囃子

薩摩守 熊坂

茂山宗彦 宇高徳成

令和6年3月17日(日)

13:30開演(12:30開場)

於 金剛能楽堂

The 22nd  
Udaka Seiran Noh no Kai

Noh *Tadanori*

17th March 2024 (Sun)  
13:30(doors open at 12:30)  
at the Kongo Noh Theatre

行き暮れて  
木の下陰を宿とせば  
花や今宵の主ならまし



第二十二回

宇高青蘭能之会

主催  
共催

宇高竜成  
景雲の  
子会

第二十二回 宇高青蘭能之会

The 22nd Udaka Seiran Noh no Kai

日時 令和6年3月17日(日)  
13:30開演(12:30開場)

会場 金剛能楽堂

京都市上京区烏丸中立売上ル  
地下鉄烏丸線「今出川」駅より徒歩5分

駐車場はございませんので、京都御苑の一般駐車場をご利用ください



入場料 指定席【SS席】12,000円  
【S席】10,000円  
【A席】8,000円  
自由席【B席】6,000円  
【学生席】3,000円  
※B席のみ



チケットのお申し込み方法 令和6年1月20日(土)11:00~チケット発売開始!

- ① 電子チケット予約サイト **teket** (テケト)  
電子チケット・座席指定・カード決済・コンビニ支払い可能
- ② 竜成の会 事務局 E-mail: info@tatsushigenokai.com  
チケットをお届けします(お支払い方法は振り込みになります)
- ③ 金剛能楽堂 TEL 075-441-7222  
自由席のみのお取り扱い(指定席のお問い合わせは竜成の会事務局へ)



teket  
お申し込みはこちら

※当日券は残席がある場合のみ販売いたします。  
※公演中の写真撮影及び録音は禁止されております。公演中の携帯電話の電源はお切りください。

Contact Us E-mail : info@tatsushigenokai.com

For information or ticket reservation

Scan this QR code



# 第二十二回 宇高青蘭能之会

令和六年三月十七日(日)

午後一時半開演  
金剛能楽堂

舞囃子

## 熊坂

シテ 宇高徳成

大鼓 谷口正壽 太鼓 前川光範  
小鼓 曾和鼓堂 笛 森田保美

地謡

高谷大悟 向井弘記  
湯川 棧 金剛龍謀  
中村洋臣 総明貞助

狂言

## 薩摩守

シテ 茂山宗彦

アト 茂山七五三  
アト 茂山逸平

後見 鈴木 実

休憩 (三十分)

能

## 忠度

シテ 宇高竜成

ワキツレ 有松達一

ワキ 岡 充

ワキツレ 原 陸

間狂言 鈴木 実

大鼓 谷口正壽 笛 森田保美  
小鼓 曾和鼓堂

後見

金剛永謀

豊嶋幸洋

地謡

山田伊純 今井克紀  
重本昌也 種田道一  
豊嶋見嗣 今井清隆  
宇高徳成 廣田泰能

午後四時半 終了予定

## ご挨拶

昨年十月は、多くの方にお力添えを賜り、実に四年ぶりとなる第二十一回宇高青蘭能之会を開催する事が出来ました。心より御礼申し上げます。

今年には舞囃子「熊坂」を徳成、能「忠度」を竜成が勤めます。熊坂長範は齢六十三で牛若丸と対決した伝説の大泥棒で、平忠度は歌の道を志した平家の武人です。彼らは幽霊となって、舞台上に現れ、自らの人生を物語ります。

また「忠度」の使用面「三光尉」「中将」の二面を景子が制作します。制作時のエピソードなどを当日の休憩時間にロビーにてご披露する企画もございます。

三姉弟で作り上げる一期一会のひとときを是非、皆様にお楽しみ頂きたく存じます。ご高覧の程何卒宜しくお願い申し上げます。

宇高

景子 竜成 徳成



宇高 景子 (うだか けいこ)

1980年京都生まれ。京都市立芸術大学美術科卒業。幼少期に能の子方(子役)を経験し、大学卒業後は、父・金剛流能楽師・故宇高通成(うだか・みちしげ)の元で能面制作に勤む。2007年、文化庁国際交流支援「宇高会欧州公演」の能面展に参加、監修。

2022年には、世界に1億人以上のユーザーを有する「Apex Legends」の人気キャラクターのマスクを手掛け話題に。2023年にはサントリ→ローマン・コッポラ監督の短編ドキュメンタリー作品で、キヌ・リーブスと共演するなど、古典の枠を超えて活動している。



宇高 竜成 (うだか たつしげ)

1981年京都生まれ。二十六世金剛流宗家・金剛永謀、及び父・宇高通成に師事。初舞台は3歳。子方時代を経て、プロの能楽師となる。舞台活動の傍ら、国内外でワークショップを行い普及活動に務める。2015年より自主公演「竜成の会」を主宰。

2017年よりYoutube「竜成の会」チャンネルで動画配信を開始。2019年「関野丸神社芸能大使」に任命される。2020年に京都市芸術新人賞を受賞する。2023年に重要無形文化財(総合認定)に指定される。現在京都を中心に活動中。



宇高徳成 (うだか のりしげ)

1985年8月12日生まれ。二十六世金剛宗家に師事。幼少の頃より父、通成の師事の元に子方として舞台上立つ。現在は毎年金剛定期能でシテを勤める他、京都や松山で能公演を主催する。愛媛大学能楽研究会講師、松竹・東映の映画所作指導、学校での能楽講座や初心者向け

ワークショップを開催するなど、能楽普及に努める。「狸々」にて初シテ。「石橋」「乱」「道成寺」「内外語」開曲。新作能「義農」2022年京都市芸術新人賞受賞。

## 【解説】

舞囃子  
熊坂(くまさか)

大盗賊・熊坂長範(くまさかのちようはん)は奥州へ下る金売り吉次を襲い、財宝を盗み取ろうと美濃国(今の岐阜県)赤坂宿にて計画を実行に移します。それを知らない吉次達は酒宴を催し、酔い伏してしまいますが……同行者の牛若丸は異変を察知して、宿の灯りを消して盗賊を待ち構えます。押し寄せる盗賊は七十人……この後、彼らは牛若丸の鬼神の様な強さを知る事になります。

この能は死後、幽霊となった熊坂長範の一人称で語られます。長刀を操る能楽師の技にもご注目ください。

狂言

薩摩守(さつまのかみ)

天王寺参詣の途中、喉が乾いた僧は茶屋へ入って茶を飲みます。世間知らずな僧が代金を払わず店を出ようとしたので、亭主が呼び止めると、僧は全くお金を持っていない。亭主は同情して茶代を許し、この先の神崎の渡船をタダで乗る方法を教えます。渡守は秀句(しゃく)が大好きなので、「船賃は薩摩守」と言い、その心は、と問われた時に「忠度(タタ乗り)」と答えよ、と教わった僧は、言われた通りに事を進めますが、薩摩守の心を途中から思い出せなくなってしまう……。

能

忠度(ただのり)

藤原俊成(ふじわらのとしなり)に任えていた者が、俊成の没後に出家して西園修行に赴きます。摂津国(今の兵庫県)須磨の浦に咲く桜の木の下で老人に出会い、一夜の宿を請うと、老人は「この花の蔭こそ今宵の宿に相応しい。この桜こそ「行き暮れて木の下陰を宿とせば花や今宵の主ならまし」と詠んだ平忠度の墓標なのです。跡を引かないさい。」と勧めます。僧は言われるがままに読経すると、老人は喜び「また夜の夢に現れよう」と言いつて消え失せます。

その夜の僧の夢に、忠度の霊が現れ出て「私の歌は千載集には入れられたが、読み人知らずと書かれた事が無念でならない。俊成が世を去った今、身内のあなたが藤原定家にこの事を話して作者の本当の名をつけてくれ。」と頼み、平家都落の時、歌の為に途中で都へ引き返した事、一の谷の合戦に岡部六兵衛と組んで討たれた事、六弥太が首を取った後、籠の中から「行き暮れて」の短冊を見つけた事などを語り、なおも同向を請い、消え失せます。